

## 堆積盆地を想定した，二酸化炭素地層処分の処分容量の推定と鉱物固定：千葉県房総半島の例

### CO<sub>2</sub> capacity and mineral trapping in sequestration of carbon dioxide: an example of the Boso Peninsula, Chiba, central Japan

# 柏木 洋彦[1]; 鹿園 直建[1]

# Hirohiko Kashiwagi[1]; Naotatsu Shikazono[1]

[1] 慶應

[1] Keio

二酸化炭素の地層処分において，その可処分容量はその実用性を評価するに当たって，極めて重要な事項である．また，処分後において，岩石圏への長期間の炭素の隔離が安全に行われるには水 - 岩石反応による炭素固定（鉱物トラッピング）が期待できることが望ましい．

地層処分の対象地域としては，堆積盆地が想定されることが多い．本研究では，日本の典型的な堆積岩地域である千葉県房総半島の鉱物及び水質を調査し，その結果を利用して同地域での可処分容量推定を行った．また，鉱物トラッピングが起きるかどうかの評価をコンピュータモデルを用いて計算してその実用性について考察した．